

## 木曽川水系木曽川圏域河川整備計画(原案)に対して学識経験者からいただいた意見

No.	原案該当箇所				学識経験者	ご意見	県の考え方
	章	節	項	頁			
1	第1章 対象県域と河川の現況	第1節 対象流域の概要		P2	信州大学 平林教授	木曽川圏域位置図は、P1とP2で同様の図があるため、1つでよいのではないか。	P1の図を削除します。
2				P2	信州大学 平林教授	図の番号、タイトルが必要。本文中で引用するとわかりやすい。	記載します。
3				P3	信州大学 平林教授	「地形・地質」「気候」「土地利用」について、図が必要ではないか。	図を挿入して修正します。
4				P6	信州大学 平林教授	「自然環境」について、引用が必要ではないか。	引用を入れて修正します。
5		第2節 圏域内河川の現況と課題	第1項 治水に関する現状と課題	P7	信州大学 平林教授	降雨量の図が必要ではないか。	P3で降雨量の図を挿入しています。
6				P7	信州大学 平林教授	昨年の洪水で、ダムの果たした役割について記載したらどうでしょうか。ダムの事前放流で約20cm水位が低下したということですが、ダムがあっても20cmが限界で、今の雨の降り方からするとそれ以上の雨が降ることは十分考えられる。	P10で令和3年度の豪雨に関する記載をするとともに、「味噌川ダムによる洪水調節により、木曽川下流域での流量低減に寄与し、大規模な浸水被害を免れることができた。」と記載します。
7				P7	信州大学 平林教授	S58年でどれくらいの流量が流れたのか。	S58年の降雨を用いた流出解析により推定した木曽川の流量は、八沢川合流前で約830m <sup>3</sup> /sです(味噌川ダムの洪水調節効果を含まない)。
8				P7	信州大学 平林教授	R3年でどれくらいの流量が流れたのか。	R3年の観測水位を用いて算出した木曽川の流量は、八沢川合流前(大手橋)で約730m <sup>3</sup> /sです(味噌川ダムの洪水調節効果を含む)。
9				P7	信州大学 豊田准教授	S58年では支川での被災はほとんど無かったのか。支川の水位や流量は出ていないと思われるが、致命的な被害が出ている川があれば、そちらが優先ではないかという話になりかねない。	S58年災では、支川での被害もありましたが、本川での被害が最も大きかったため、木曽川の整備を優先します。

10	第2章 河川整備計画お目 標にかする事項	第1節 計画対象区間		P13	信州大学 平林教授	水系図が必要ではないか。	図を挿入して修正します。
11		第2節 計画対象期間		P15	信州大学 平林教授	20年間と言う期間で整備を進めるということだが、その間にさらに大きな洪水や災害があったら見直しは考えられるのか。	P15で「本整備計画は、流域の社会情勢の変化、自然状況・河川状況の変化、地域の意向等を適切に反映できるよう適宜見直しを行う」と記載があります。
12	第2章 河川整備計画お目 標にかする事項	第3節 洪水による災害発生 の防止又は軽減にか する目標		P15	信州大学 平林教授	木曽川を優先的に整備を行うとあるが、他にもっと危険なところがないのか。木曽川を優先的に行うという理由を本文に記載すべきではないのか。	P17で「河川整備計画対象河川のうち、沿川の人口・資産の集積状況、災害の発生状況、現況の流下能力等を総合的に勘案し、木曽川本川の整備を優先的に行う。」と記載があります。
13				P15	木曽町 建設農林課 星野課長	木曽地域の中でも人工・資産の集積状況が高い木曽町福島の木曽川河川整備を優先に行い、次のステップに進んでいただけるとありがたい。整備が終わった先は、支流にも手を伸ばし整備計画を作って欲しい。	検討します。
14				P15	信州大学 平林教授	全体的に流量の数値の記載が無い。きちんと書かないと整備計画にならない。	P20で流量配分図を挿入します。
15				P15	水産試験場 木曽支部 澤本研究員	木曽川全体でS58災の流量がどれぐらいあり、現在耐えられない箇所を計画の中で示しておかないと、なぜこだけの話になる。計画流量を正しく示して欲しい。どうしてこれだけ上げるのかわかるような計画にして欲しい。	P20で流量配分図を挿入します。整備対象箇所は、P20で「上流ダムとの連携に加え、河川を拡げる、河床を掘ることにより流下能力を確保し、洪水氾濫から家屋の浸水を防止する。」と記載のあるように、流下能力が不足している箇所を選定して決定しています。
16	第3章 河川整備の実施に 関すること	第1節 河川工事の目的、種 類及び施行の場所 並びに該当河川工 事の施行により 設置される河川管 理施設の機能の概要	第1項 河川工事の目的	P18	信州大学 平林教授	具体的に市民にも分かるような記載にした方が良いのではないか。	P20で「上流ダムとの連携に加え、河川を拡げる、河床を掘ることにより流下能力を確保し、」に修正します。
17			第2項 施工の場所	P18	木曽町 建設農林課 星野課長	地区名の前に町村名を入れた方が分かり易い。	記載します。
18				P18	木曽町 教育委員会 千村調査員	川西について、取水堰堤があるため河床があがる。右岸を拡げる計画だが葬祭センターの協力が得られるのか。	葬祭センターは影響が無い場所であり、河川計画に合った地盤高まで盛り上げています。

19			第4項 整備の内容	P18	日本野鳥の会 木曾支部 松原支部長	計画場所で注意する鳥はいない。周囲にクマタカ <small>の</small> 巣はあるが距離があり、この河川とは重要な関係をもっていないため、影響はない。	
20		第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所	第2項 河川の維持の種類及び施行の場所	P19	信州大学 豊田准教授	藪原地区の距離の記載に誤りがある。	「岐阜県境上流60.9～61.1kmの約0.1kmの区間」へ修正します。
21				P19	信州大学 平林教授	川西地区、行人橋地区の優先順位はどう考えているのか。	川西地区から行い、つづいて行人橋を行う予定です。
22				P19	木曾町 建設農林課 星野課長	地区名の前に町村名を入れた方が分かり易い。	記載します。
23				P19	木曾川漁協 三澤副組合長	行人橋工区を拡げると、下流の流速が増して、S58災のような被害が出るのではないかと心配だ	行人橋工区については、今後の測量設計で検討します。
24				P19	水産試験場 木曾支部 澤本研究員	行人橋は岩盤で水深、地形の変化、上下に瀬があり漁場として、こちら辺でも一般な場所。工事でも環境が維持できるように配慮して欲しい。	実施計画の中で配慮していきます。
25	第4章 河川情報の提供、地域や家計機関との連携等に関する事			P20	信州大学 平林教授	ハード的なことに重点を置くと住民の誤解を招くことになるので、ハードを実施するがソフトも重要だと分かっていただけのように書いておいた方がよい。	P24で「今後、河川整備等のハード対策とともに、「施設で防ぎきれない大洪水は発生するもの」へと意識改革し、社会全体で洪水氾濫に備えられるよう、関係機関と連携してソフト対策の実施へ取り組んでいく。」と記載を修正します。
26		第1節 河川情報に関する事項	第1項 減災に資する事項	P20	信州大学 豊田准教授	避難勧告を避難指示にする。	修正します。
27		第2節 地域や関係機関との連携等に関する事項	第4項 総合治水・流域治水のとりくみ	P22	信州大学 豊田准教授	流域治水と書いてあるが、「土砂の流出には気をつけます」というような文言を入れておいた方がよいのではないか。	P24で「総合的な土砂管理に関し、関係機関と連携し、情報共有を図ります。」と記載します。
28	計画以外について				木曾川漁協 三澤副組合長	淵が減ったが、淵を作ると人命や財産などに関わるため、災害復旧などではある程度流すことが目的になってくると思う。それ以外の場所で淵などが多くあれば漁協としてありがたい。	検討します。